



庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ イロハモミジ ～

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

秋に紅葉する樹種の代表選手は何と言ってもカエデ類です。その中でもイロハモミジは公園や庭園等に庭木として最も多く植栽されています(写真1)。秋の紅葉はもちろんのこと、春には新緑を親しむことができる樹種でもあります。

1 特徴

福島県以西の本州、四国、九州、朝鮮に分布するカエデ科カエデ属の落葉高木です。生育場所は川べりや谷合です。このことから、①排水がよい湿潤で肥沃な土壌を好みますが、②乾燥に弱く、③直射日光や西日が苦手です。

和名の由来は、葉の裂片(写真1の右下)を数えるとき、「イロハニホヘト」と数えたことによると言われています。イロハカエデとも呼ばれています。

2 管理

庭に植栽するときは、前節の①から③までを守る必要があります。そのためには、植栽前に植えたい場所の土壌状態を知ることが大切です。土壌がやせておれば、土壌を50cm程度の深さまで掘返し、腐葉土を入れて土壌と良く混和して戻し、その後植栽します。水はけが悪いようであれば、庭の外に水が排出されるように暗渠排水等の対策をとります。

自然樹形が美しいので、剪定をしないで育てればよいですが、混み合って整枝剪定が必要になれば、落葉直後に自然樹形を乱さない範囲内で行います。

モミジ類の病害虫はカミキリムシ、アブラムシ、イラガ、うどんこ病等です。特に注意しなければならないのは、ゴマダラカミキリの幼虫による被害です。幼虫は幹の内樹皮・形成層・辺材部を食害しますので、多発すれば水や養分の通り道が遮断され、枯死に至ります。被害は幹から虫糞が排出されていることが目印です。排出中の虫糞を見つけたら、園芸用キンチョールEで対応してください。これはノズル式ですので、虫糞の排出口にノズルを差し込んで薬剤がそこから流出するまで噴射してください。

3 その他

県内にはイロハモミジの大きな木があり、県や市の天然記念物あるいは市の保存木等に指定され、維持管理されています。

砺波市五郎丸の五鹿屋農村公園内には、市の保存木となっているイロハモミジ(推定樹齢は200年)があります(写真2)。植栽されている場所は旧小学校の運動場であったため、生育条件としては悪い環境下にあります。そのため、樹勢は衰退傾向にあり、これまで、維持管理のための対策が講じられてきました。

昨年からは、直射日光を避けるため、イロハモミジの樹冠全体を夏の間遮光シートで覆う作業も再開されました。今年の3月には、樹冠周辺の土壌改良が実施されました。このように、この地区ではこの保存木を後世までに残すための努力が熱心に続けられています。



写真1 富山県中央植物園のイロハモミジ
(2011年11月28日撮影)



写真2 砺波市五郎丸 五鹿屋農村公園内のイロハモミジ
(2017年7月15日撮影)